

## BCAO 関西支部 平成 29 年 11 月度（第 126 回） 勉強会議事録

日時： 11 月 15 日（水） 19:30～20:30

場所： 株式会社竹中工務店大阪本店（御堂ビル） 〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13  
地下 1 階（T's イノベーションサロン）

出席者： 飯田、鷺山、萩原、岡田、松尾、三橋、伊藤、徳永、梅田、久保田、柳父

司会： 藤村、書記： 野原（合計 13 名）

1. テーマ：「BIA 具体的手順（副題：それぞれの BIA と課題）」

2. 概要：周知の通り、BIA は BCP と企業戦略をつなぐ重要な役割をもっている。経済産業省や内閣府などにより BCP ガイドラインにも記載されており、以前よりある考えだが、実務を行っている BCP 担当者からは、BIA を実施したものの、「複雑」、「有効性が感じられない」といった意見もある。今回は、BIA の実施経験をもとに、事例と課題を紹介頂き、グループミーティング形式にて議論を行った。

3. 討議内容

（1）竹中工務店の BIA について事例紹介

- ①経営への影響を 3 つの視点（顧客、収益/資産、社会）で分析
- ②重要業務の決定
- ③目標復旧期間

（2）BIA について自由にディスカッション

以下のような意見が交わされた。

- ・ BIA は何が肝か。
- ・ BIA は、総務が作成するのではなく、現場で業務を行っている人に作成させるべきである。BCP を現場で復旧作業に当たる人が作成したら、BIA で想定外となった事項も臨機応変に対応できるのでは。
- ・ BIA をやり BCP を作った経験が有事で生きる。人に作ってもらった BCP がそのまま発災時に使えると考えるとところに無理がある。
- ・ RT0 を決める意味が分からない。プロセスフローや、重要な経営資源の洗い出し等は実施する必要がある。
- ・ RT0 は各工程の積み上げ等計算式で出来るものではない。緻密に計算しても決まらない。RT0 は自分たちで大雑把に決めるもの。
- ・ 対策の検討は、リスク分析と重要経営資源を組み合わせで行わないと決まらない。
- ・ リスクの軽減のための事前対策は、リスクが分からないと効果的に実施できない。  
例) 地震対策であれば変電設備は地下が良い。洪水対策であれば屋上設置の方が良い。  
→リスク事象により変電設備の設置場所が異なる。（原因事象による BCP）
- ・ 地震リスクだけで対策を考える場合は良いが、その他のリスクを考えると様々な対策が必要となる。リスクが異なっても、同じ視点で重要な設備が被災し、使えなくなったらどうするかという視点で考えてはどうか。  
例) 変電設備が壊れたら修理する。代替を用意する。修理のために業者の名簿を作成し、優先保守契約を結ぶ。修理完了までの間、大型発電機をレンタルし、

電源を確保する。

→リスク事象が異なっても変電設備が使えなくなった場合の対応方法は同じ。

(結果事象によるBCP)

- ・原因事象と結果事象を両側面に対策を考える必要がある。
- ・RTOは限られた経営資源の中で、いつまでに何を復旧させるかを取捨選択する、どこまで投資するか判断するためには必要である。

以上